

エチオピアにおける緑化意識の高い 先進的モデル町づくりプラン ～グリーンラリベラプロジェクト

ひろげる助成

3年目

実践

苗木生産 **200,000本**

環境ノート配布 **1,200冊**

今年度計画の達成度 **80%**

目標達成度 **80%**

苦勞した点と工夫した点

■ 苦勞した点

緑化は問題ないが、地元NGOの事務処理の遅延には泣かされた。エチオピア暦のままの領収書が届いたり、内容の照会に手間取るものも多く、さらなる研鑽が必要と感じた。

■ 工夫した点

外部組織(特に京都造形芸術大学の学生教職員が作るラリベラ学会)との連携は、当団体に大きな新風となった。将来的な連携も期待できる。



課題

住民らが現在植えられている樹をうまく利用しながら維持していく仕組みがない。また21世紀の世界遺産の町にふさわしい趣きのある街路樹風景がない。

目標

森林造成を通じ植生の絶対量を増やす。緑化に関するキャンペーン事業を行う。環境プログラムを行い、普及啓発活動を進め先進的モデル地域の成功例を周辺に拡大していく。

活動内容と成果

ラリベラ市内とカンカニ地区で計198,000本の苗木を生産した。うち住民参加でカンカニでは住民が39,500本、学校の子も達が500本、ラリベラでは、65,000本を植林、30,600本の苗木を配布(学校750本、個人住宅19,000本、ホテルなど11,000本)するなど、市民の緑化意識は高まった。街路樹は105本を植林し、保護のための竹籠をかぶせた。環境教育プログラムには、5校が登録。150人の生徒と15人の先生がスタディツアーに参加、環境教育ノート1,200冊が配布された。



全助成期間の活動を振り返って

得意分野の緑化に関しては、申し分ない活動ができた。しかし「世界遺産にふさわしい緑化」に関しては、3年間の活動では不十分だった。ラリベラ学会(日本)が街路樹のコンペをし、2017年に学生4人がラリベラに赴き、小学校で街路樹提案のコンペを行った。その結果を受け、子どもたちの選んだ木を住民とともに植樹したが、また何者かに撤去された。ラリベラ市とラリベラ市のグリーンマスタープランづくりを検討している。



| 活動地域 |  エチオピア

〒976-0022 福島県相馬市尾浜字南ノ入241-3

電話 : 0244-38-7820

E-mail : info@futaro.org

http://futaro.org



今後の
展望

京都造形芸術大学教職員から(株)戸田芳樹風景計画を紹介してもらい、一緒にラリベラで緑の設計を行っていく合意ができた。ラリベラ市長に面談し、新たにできた2か所のニュータウンの緑のデザインと植栽を任せられた。市長はこれを「パイロット事業」と考えていて、これが成功すれば町中も検討したいとのこと。これらニュータウンの緑化を先行事例にし、住民の理解を深めていきたい。